

## III. 商業施設アンケート

### 1. 調査概要

#### (1) 調査の目的

吹田市のまちづくりに関する市民アンケート（無作為抽出アンケート）では声が拾いきにくい世代（主に20～40代）からの意見把握を目的に、商業施設に出向いてアンケートを実施した。

#### (2) 調査日・場所

- ア 令和4年（2022年）10月25日（火） 13時～19時 イオン吹田店
- イ 令和4年（2022年）11月11日（金） 13時～19時 イオン北千里店
- ウ 令和4年（2022年）11月23日（水・祝） 10時～17時 ららぽーとEXPOCITY

#### (3) 調査方法

- ア パネルとシールを用い、SDGsで重視するゴールの調査を行った。
- イ タブレットパソコンを用い、総合計画のめざすまちの姿に対する到達度の調査を行った。

#### (4) 調査対象

商業施設来場者

#### (5) 調査項目

- ア あなたがSDGsで重視するゴール（パネルアンケート）
- イ 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度（タブレットアンケート）

#### (6) 回答結果

パネルアンケート522件、タブレットアンケート269件

図表 III-1 パネルアンケート(左)、タブレットアンケート(右)のイメージ

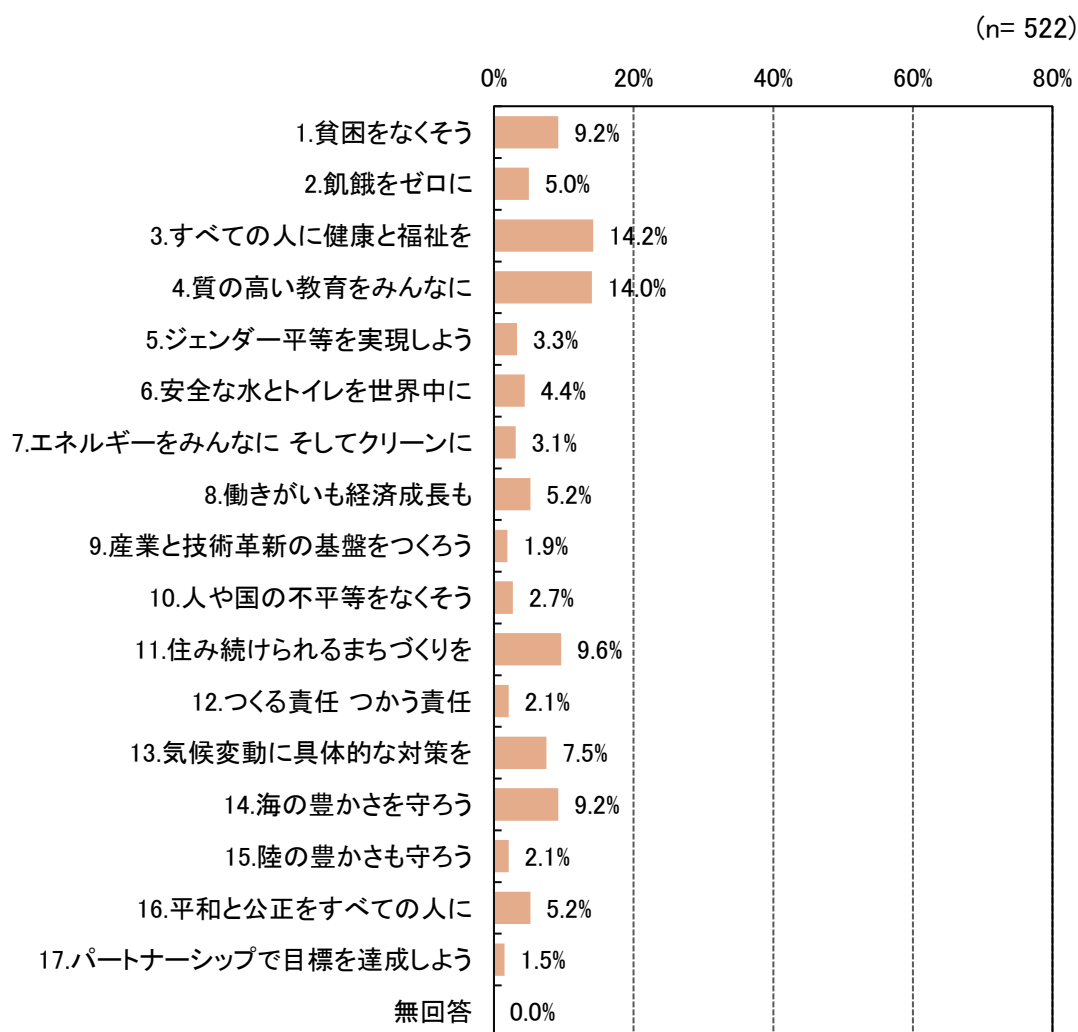


## 2. 調査結果

### (1) あなたが SDGs で重視するゴール (パネルアンケート)

「あなたが重視する SDGs のゴール」について、吹田市のまちづくりに関する市民アンケートと比較し、「4.質の高い教育をみんなに」、「13.気候変動に具体的な対策を」、「14.海の豊かさを守ろう」を重視する回答者が多かった。

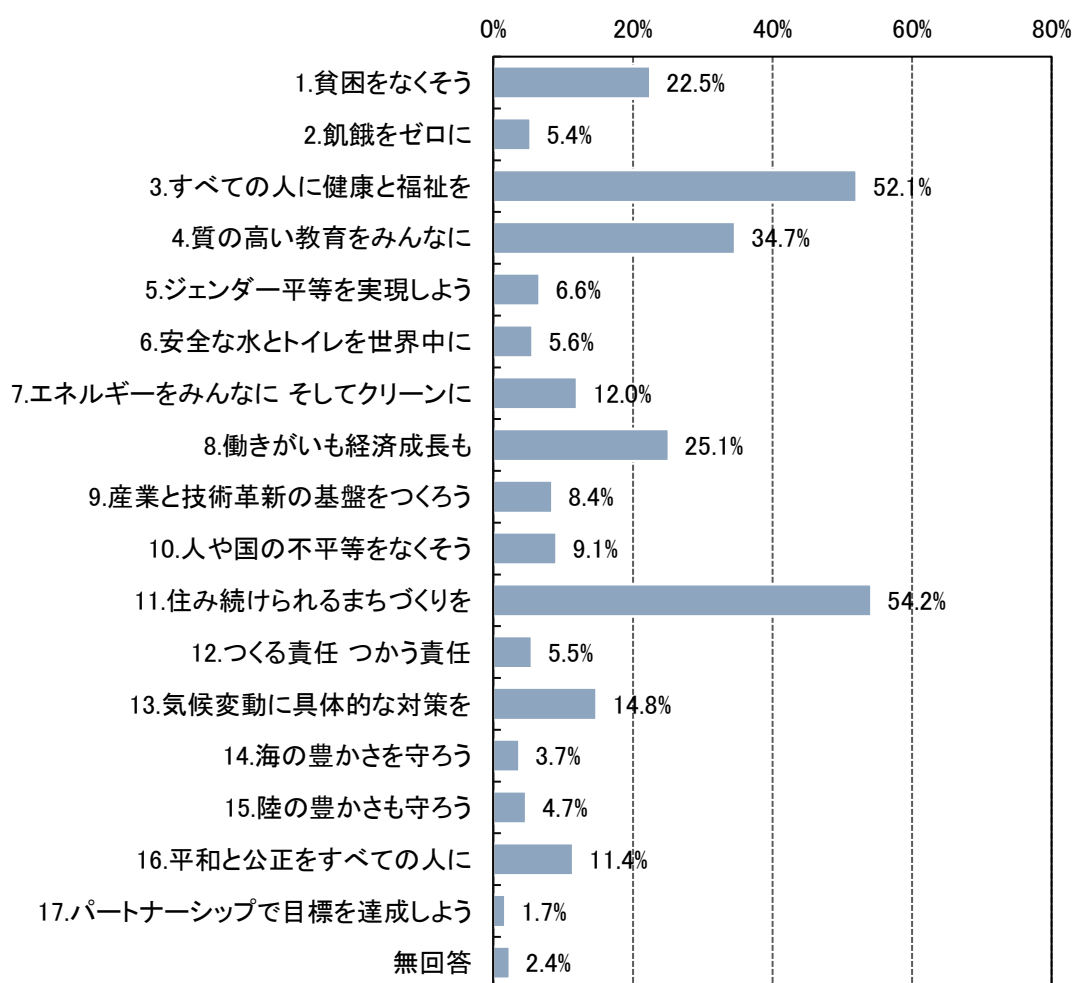
図表 III-2 あなたが SDGs で重視するゴール(パネルアンケート)の結果



※ 1人1枚シールを貼っているため、市民アンケートの「3つまで選択」とは割合が異なり、単純な数値での比較はできない。

参考:吹田市のまちづくりに関する市民アンケート(3つまで回答)

(n=1,102)



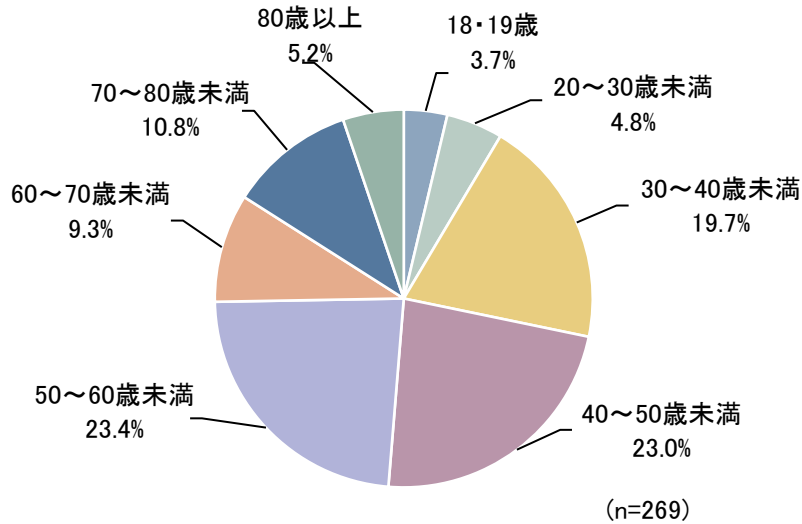
## (2) 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度（タブレットアンケート）

### ア 回答者の属性

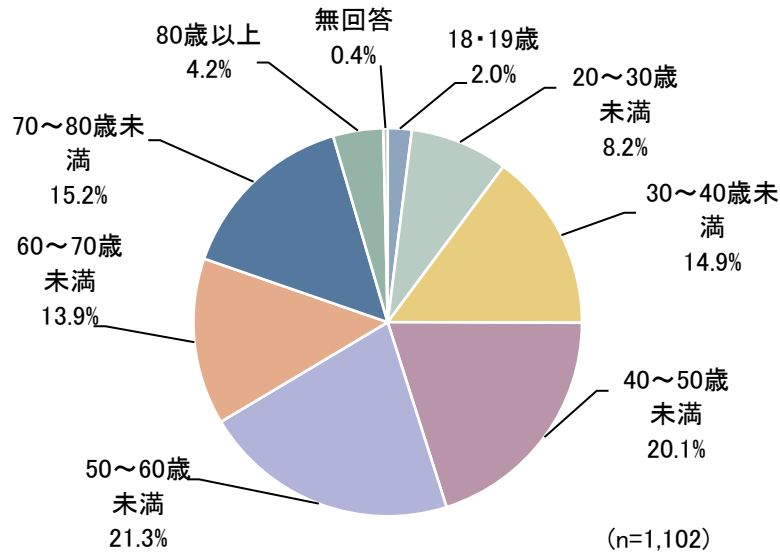
#### (ア) 年齢

吹田市のまちづくりに関する市民アンケートと比較して、タブレットアンケートでは、30～40歳未満の割合が若干高くなっている（タブレットアンケート：19.7%、吹田市のまちづくりに関する市民アンケート：14.9%）。

図表 III-3 タブレットアンケート回答者の年齢割合



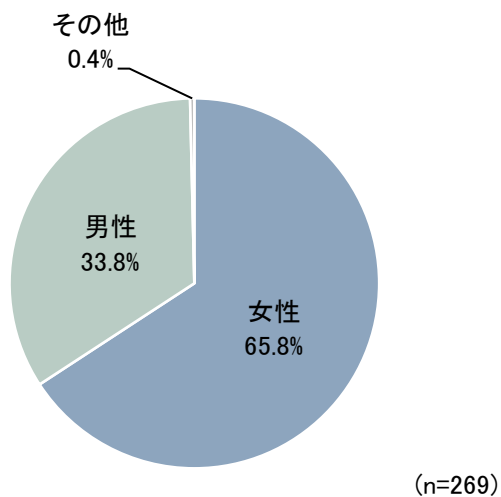
参考：吹田市のまちづくりに関する市民アンケート



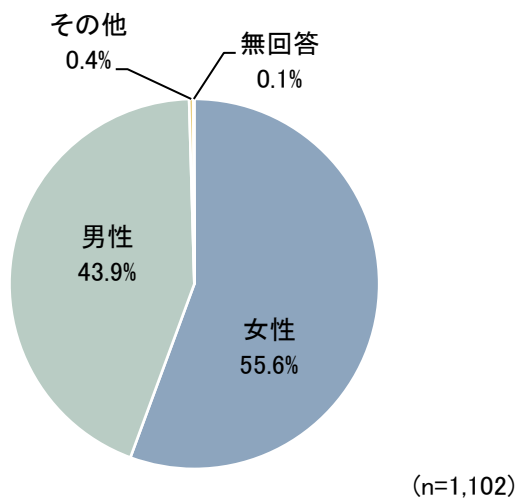
## (イ) 性別

回答者の性別で見ると、「女性」(65.8%)の方が、「男性」(33.8%)よりも回答割合が多い。吹田市のまちづくりに関する市民アンケートと比較しても女性の割合が高くなっている。

図表 III-4 タブレットアンケート回答者の性別割合



参考:吹田市のまちづくりに関する市民アンケート

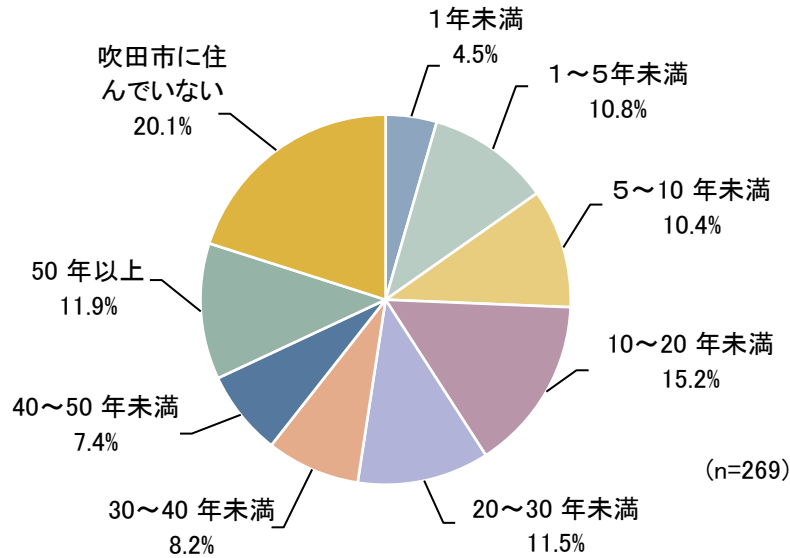


### (ウ) 吹田市での居住年数

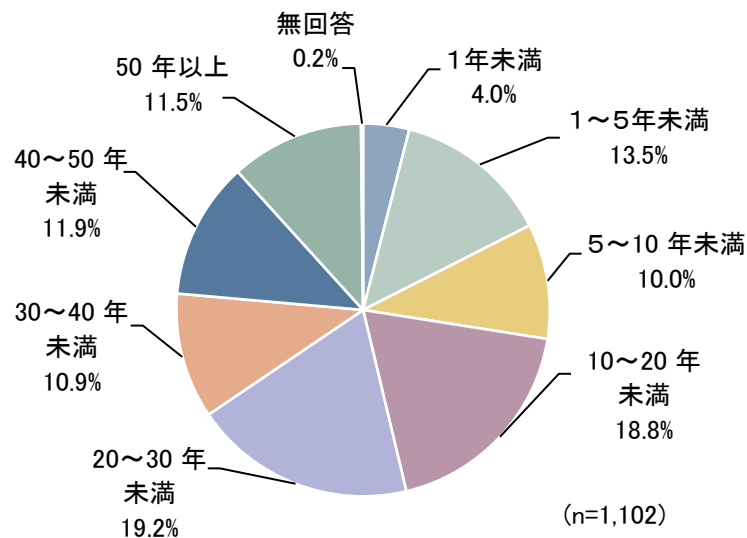
回答者の吹田市での居住年数は、「10～20年未満」（15.2％）の割合が最も高く、次に「50年以上」（11.9％）、「20～30年未満」（11.5％）が続く。

吹田市のまちづくりに関する市民アンケートと比較すると、約2割が吹田市に住んでいない市外在住者であるため、「20～30年未満」、「40～50年未満」などを始めとした市内在住者の割合が低くなっている。

図表 III-5 タブレットアンケート回答者の居住年数割合



参考：吹田市のまちづくりに関する市民アンケート



## イ 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度

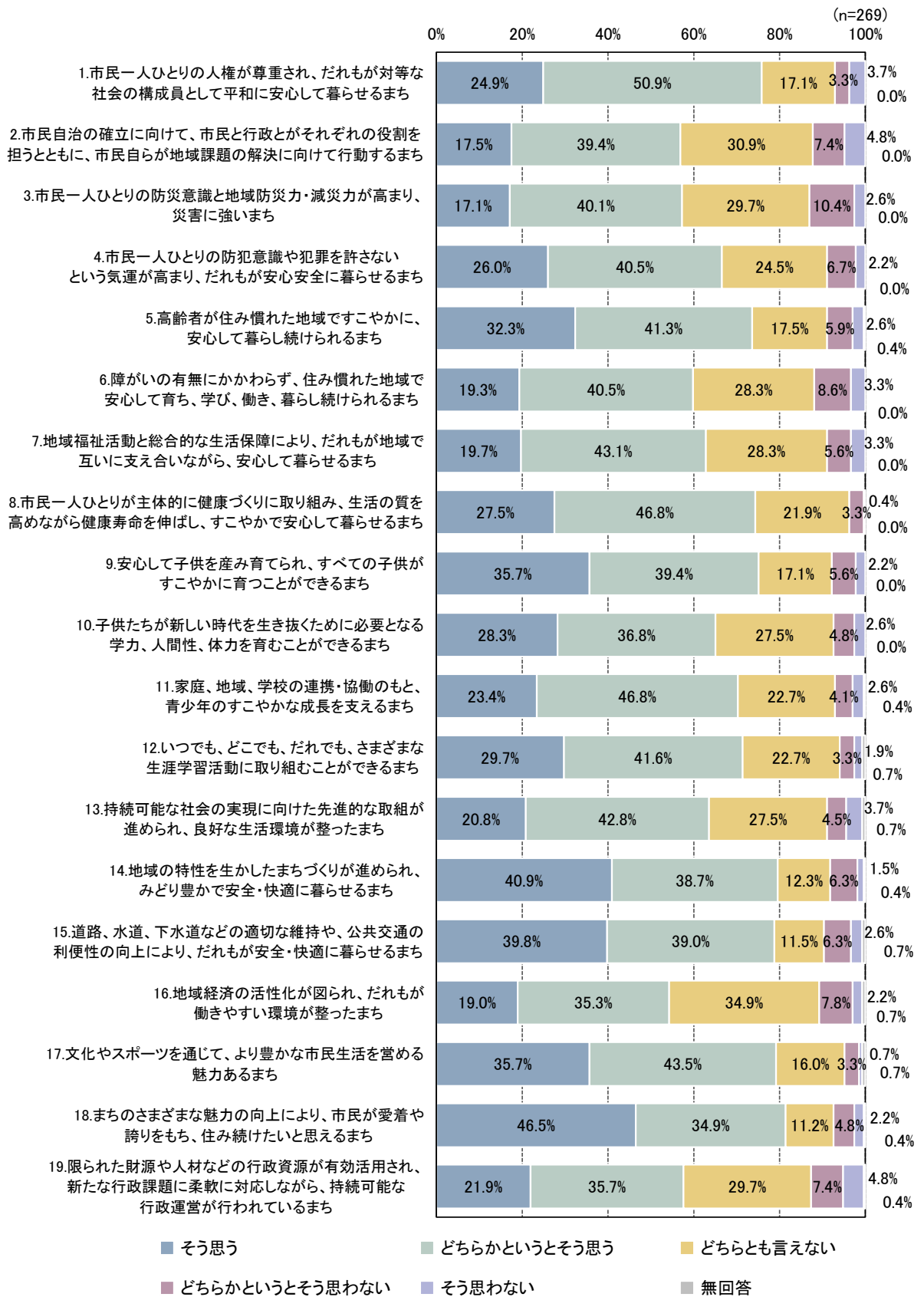
### (ア) 単純集計による分析

総合計画の19のめざすまちの姿について、それぞれに近づいていると思うかを尋ねた。

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計をみると、「18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち」（81.4%）の割合が最も高く、次に「14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」（79.6%）、「17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」（79.2%）が続く。

一方で、「そう思う」と「どちらかというと思う」の割合が低いものは、「2.市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担うとともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち」（56.9%）、「16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち」（54.3%）である。

図表 III-6 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度(タブレットアンケート)



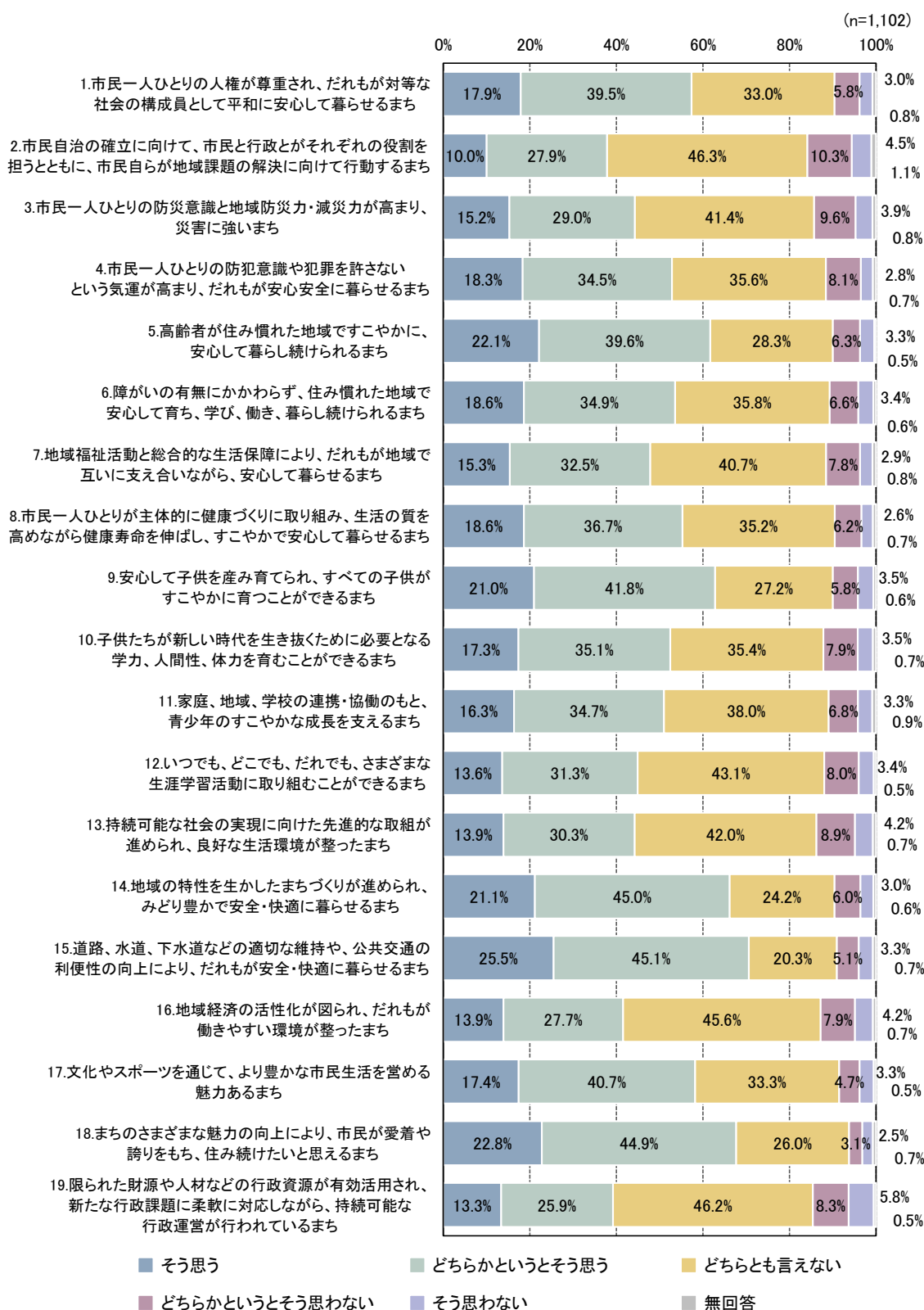


### **(イ) 吹田市のまちづくりに関する市民アンケートとの比較**

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計を見ると、全ての設問について、吹田市のまちづくりに関する市民アンケートより割合が高い傾向が見られた。そのうち、市民アンケートとの差が大きかった項目は、「12.いつでも、どこでも、だれでも、さまざまな生涯学習活動に取り組むことができるまち」(26.4 ポイント)、「17.文化・スポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」(21.0 ポイント) だった。

一方、評価の乖離が小さかったのは、「6.障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して育ち、学び、働き、暮らし続けられるまち」(6.3 ポイント)、「15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち」(8.2 ポイント) であり、2つのアンケートにおいて同じような評価であった。

## 参考: 吹田市のまちづくりに関する市民アンケート



### (ウ) クロス集計による分析（年代別）

総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度について「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計を年代別に分析した。年齢区分と人数・割合については以下のとおり。

図表 III-7 年齢区分の統合と人数・割合について

年齢	人数（人）	割合（%）	年齢（統合）	人数（人）（統合）	割合（%）（統合）
18-19 歳	10	3.7	10 歳代	23	8.6
20-29 歳	13	4.8	20 歳代		
30-39 歳	53	19.7	30 歳代	53	19.7
40-49 歳	62	23.0	40 歳代	62	23.0
50-59 歳	63	23.4	50 歳代	63	23.4
60-69 歳	25	9.3	60 歳代以上	68	25.3
70-79 歳	29	10.8			
80 歳以上	14	5.2			




























総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度について、「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計を年代別に、特に若い世代（10 歳代～40 歳代）について着目する。































10～20 歳代で他の世代と比較して評価が高い項目は「5.高齢者が住み慣れた地域ですこやかに、安心して暮らし続けられるまち」「9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち」であるのに対して、評価が低い項目は「17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」であった。




































30 代で他の世代と比較して評価が高い項目は「11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を支えるまち」「14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち」「15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち」「17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち」「18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち」であった（評価が低い項目は特になし）。

40 歳代で他の世代と比較して評価が高い項目は「10.子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち」であった。

図表 III-8 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度  
 (「思う」と「どちらかというと思う」の合計年代別)

1.市民一人ひとりの人権が尊重され、だれもが対等な社会の構成員として平和に安心して暮らせるまち	10歳代・20歳代		78.3
	30歳代		81.1
	40歳代		77.0
	50歳代		71.9
	60歳代以上		73.5
2.市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担うとともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち	10歳代・20歳代		56.5
	30歳代		62.3
	40歳代		57.4
	50歳代		57.8
	60歳代以上		51.5
3.市民一人ひとりの防災意識と地域防災力・減災力が高まり、災害に強いまち	10歳代・20歳代		60.9
	30歳代		56.6
	40歳代		60.7
	50歳代		60.9
	60歳代以上		50.0
4.市民一人ひとりの防犯意識や犯罪を許さないという気運が高まり、だれもが安心安全に暮らせるまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		71.7
	40歳代		65.6
	50歳代		62.5
	60歳代以上		66.2
5.高齢者が住み慣れた地域ですこやかに、安心して暮らし続けられるまち	10歳代・20歳代		91.3
	30歳代		81.1
	40歳代		72.1
	50歳代		62.5
	60歳代以上		73.5
6.障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して育ち、学び、働き、暮らし続けられるまち	10歳代・20歳代		60.9
	30歳代		69.8
	40歳代		67.2
	50歳代		53.1
	60歳代以上		51.5

7.地域福祉活動と総合的な生活保障により、だれもが地域で互いに支え合いながら、安心して暮らせるまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		66.0
	40歳代		65.6
	50歳代		62.5
	60歳代以上		55.9
8.市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組み、生活の質を高めながら健康寿命を伸ばし、すこやかに安心して暮らせるまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		79.2
	40歳代		63.9
	50歳代		73.4
	60歳代以上		82.4
9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち	10歳代・20歳代		87.0
	30歳代		83.0
	40歳代		75.4
	50歳代		68.8
	60歳代以上		48.0
10.子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち	10歳代・20歳代		78.3
	30歳代		67.9
	40歳代		77.0
	50歳代		62.5
	60歳代以上		50.0
11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を支えるまち	10歳代・20歳代		60.9
	30歳代		79.2
	40歳代		75.4
	50歳代		68.8
	60歳代以上		63.2
12.いつでも、どこでも、だれでも、さまざまな生涯学習活動に取り組むことができるまち	10歳代・20歳代		78.3
	30歳代		71.7
	40歳代		62.3
	50歳代		68.8
	60歳代以上		79.4

13.持続可能な社会の実現に向けた先進的な取組が進められ、良好な生活環境が整ったまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		69.8
	40歳代		65.6
	50歳代		59.4
	60歳代以上		58.8
14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち	10歳代・20歳代		82.6
	30歳代		90.6
	40歳代		82.0
	50歳代		71.9
	60歳代以上		75.0
15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち	10歳代・20歳代		82.6
	30歳代		88.7
	40歳代		82.0
	50歳代		75.0
	60歳代以上		70.6
16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち	10歳代・20歳代		65.2
	30歳代		69.8
	40歳代		63.9
	50歳代		51.6
	60歳代以上		32.4
17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち	10歳代・20歳代		69.6
	30歳代		88.7
	40歳代		83.6
	50歳代		73.4
	60歳代以上		76.5
18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち	10歳代・20歳代		78.3
	30歳代		88.7
	40歳代		78.7
	50歳代		81.3
	60歳代以上		79.4
19.限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち	10歳代・20歳代		56.5
	30歳代		66.0
	40歳代		57.4
	50歳代		60.9
	60歳代以上		48.5

## (エ) クロス集計による分析（居住地別）

居住地別の分析においては、傾向を見るため、サンプルを下記のとおり統合した。

図表 III-9 居住区分の統合と人数・割合について

居住年数	人数（人）	割合（％）	居住年数 （統合）	人数（人） （統合）	割合（％） （統合）
1年未満	12	4.5	吹田市に 住んでいる	215	79.9
1-5年未満	29	10.8			
5-10年未満	28	10.4			
10-20年未満	41	15.2			
20-30年未満	31	11.5			
30-40年未満	22	8.2			
40-50年未満	20	7.4			
50年以上	32	11.3			
吹田市に 住んでいない	54	20.1	吹田市に 住んでいない	54	20.1

総合計画の 19 のめざすまちの姿の到達度における「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計について、吹田市に住んでいるか、住んでいないかで生じる評価の「ギャップ」に着目した。

全体的に市外からの評価が市民の評価よりも高い傾向にあり、最もギャップがあるのは「16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち」（24.8 ポイント）、次いで「19.限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち」（20.6 ポイント）、「10.子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち」（18.2 ポイント）と続く（図表 III-10 実線の枠）。

一方、市外からの評価と市民の評価がほぼ変わらない項目は「1.市民一人ひとりの人権が尊重され、だれもが対等な社会の構成員として平和に安心して暮らせるまち」「8.市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組み、生活の質を高めながら健康寿命を伸ばし、すこやかに安心して暮らせるまち」「18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち」などであった（図表 III-10 点線の枠）。

図表 III-10 総合計画の19のめざすまちの姿の到達度  
 (「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計居住状況別)

		(%)	
1.市民一人ひとりの人権が尊重され、だれもが対等な社会の構成員として平和に安心して暮らせるまち	吹田市に住んでいる		76.3
	吹田市に住んでいない		74.1
2.市民自治の確立に向けて、市民と行政とがそれぞれの役割を担うとともに、市民自らが地域課題の解決に向けて行動するまち	吹田市に住んでいる		53.5
	吹田市に住んでいない		70.4
3.市民一人ひとりの防災意識と地域防災力・減災力が高まり、災害に強いまち	吹田市に住んでいる		56.7
	吹田市に住んでいない		59.3
4.市民一人ひとりの防犯意識や犯罪を許さないという気運が高まり、だれもが安心安全に暮らせるまち	吹田市に住んでいる		67.0
	吹田市に住んでいない		64.8
5.高齢者が住み慣れた地域ですこやかに、安心して暮らし続けられるまち	吹田市に住んでいる		71.6
	吹田市に住んでいない		81.5
6.障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して育ち、学び、働き、暮らし続けられるまち	吹田市に住んでいる		57.2
	吹田市に住んでいない		70.4
7.地域福祉活動と総合的な生活保障により、だれもが地域で互いに支え合いながら、安心して暮らせるまち	吹田市に住んでいる		60.9
	吹田市に住んでいない		70.4
8.市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組み、生活の質を高めながら健康寿命を伸ばし、すこやかで安心して暮らせるまち	吹田市に住んでいる		74.9
	吹田市に住んでいない		72.2
9.安心して子供を産み育てられ、すべての子供がすこやかに育つことができるまち	吹田市に住んでいる		72.6
	吹田市に住んでいない		85.2
10.子供たちが新しい時代を生き抜くために必要となる学力、人間性、体力を育むことができるまち	吹田市に住んでいる		61.4
	吹田市に住んでいない		79.6
11.家庭、地域、学校の連携・協働のもと、青少年のすこやかな成長を支えるまち	吹田市に住んでいる		67.9
	吹田市に住んでいない		79.6
12.いつでも、どこでも、だれでも、さまざまな生涯学習活動に取り組むことができるまち	吹田市に住んでいる		70.2
	吹田市に住んでいない		75.9
13.持続可能な社会の実現に向けた先進的な取組が進められ、良好な生活環境が整ったまち	吹田市に住んでいる		60.5
	吹田市に住んでいない		75.9
14.地域の特性を生かしたまちづくりが進められ、みどり豊かで安全・快適に暮らせるまち	吹田市に住んでいる		78.6
	吹田市に住んでいない		83.3
15.道路、水道、下水道などの適切な維持や、公共交通の利便性の向上により、だれもが安全・快適に暮らせるまち	吹田市に住んでいる		77.7
	吹田市に住んでいない		83.3
16.地域経済の活性化が図られ、だれもが働きやすい環境が整ったまち	吹田市に住んでいる		49.3
	吹田市に住んでいない		74.1
17.文化やスポーツを通じて、より豊かな市民生活を営める魅力あるまち	吹田市に住んでいる		76.3
	吹田市に住んでいない		90.7
18.まちのさまざまな魅力の向上により、市民が愛着や誇りをもち、住み続けたいと思えるまち	吹田市に住んでいる		81.4
	吹田市に住んでいない		81.5
19.限られた財源や人材などの行政資源が有効活用され、新たな行政課題に柔軟に対応しながら、持続可能な行政運営が行われているまち	吹田市に住んでいる		53.5
	吹田市に住んでいない		74.1